

「空き家条例」の制定を

3月議会一般質問で、私は「空き家条例」について提案しました。いま高齢化がすすむ中で、旧市街地や農村集落の中に住む人のいなくなった「空き家」が増えてきています。若い者が都市や団地に行って帰ってこない、年寄った親世代がやがて亡くなったあとに残された住宅が、管理する者もなく荒れたままになっている、などにより管理不全の空き家が、集落や近隣の人たちの住環境を悪くしています。また台風や地震などの自然災害による倒壊の危険、火災の危険や、道路通行への障害、不特定者の侵入のおそれなどが問題化しつつあります。

生活環境と防災を主眼とした空き家管理の対策を

空き家と言っても、だれか所有者のある私有財産であり、危ないからといって他人や役所が勝手にさわることは出来ませんが、放置したままでは実害が生じてきます。そこできちんとした条例を制定して、空き家に行政が指導できる権限をもてるようにする自治体が出てきています。すでに全国で200を超える自治体、県内でも鳥羽市、名張市などが条例を制定しています。

市民から空き家についての苦情や相談、情報提供があれば、市は現場を調査して、その状態や所有者・管理者についての実態を把握、そして関係者との話し合い、関係行政機関との協議など対応策を進め、適正な管理がされるように助言・指導・勧告を行なうことができます。

所有者・管理者がすぐに指導に従ってもらえない場合もあるでしょう。だれが管理しているかも、よく分からない空き家もあるでしょう。しかし、今まではなかなか行政が踏み込めなかったケース、例えば屋根瓦が落ちそうで周辺の住民に危険が及びそうな場合は、市は瓦を取り外すなど必要最小限の措置ができる、窓や戸が開いたままで防犯上、防災上危険がある時は、進入できないような措置ができる、など実際に効果がある対策をとれる権限を市が持つ条例にすることが必要だと思えます。

鈴鹿市の新年度予算より 学校の普通教室に扇風機取り付け

昨年から夏の猛暑対策として、小中学校の普通教室すべてに扇風機を取り付けることになり、今年の夏までに全校に設置されます。（総予算990万円）しかし、他市ではもうエアコン設置が進んでいます。私は「扇風機で教室の温度が下がるか？」と質問しました。扇風機は空気をかき回しますが、温度そのものを下げることは出来ません。

文部科学省の「学校環境衛生基準」では、教室の温度は「夏は30度以下、冬は10度以上が望ましい。生理的・心理的に最も望ましい条件は、夏は25～28度、冬は18～20度」という基準が示されています。この基準を満たすには、エアコンで温度を下げるしかありません。今やどこの家庭、事業所でも、エアコンは「あって当たり前」の時代です。

通学路の防犯灯の費用は市が負担

防犯灯は地元自治会が設置、管理し電気代も負担していますが、集落と集落の間の防犯灯まで地元負担はおかしいと、改善の要望が出ていました。新年度からは、通学路に指定された集落間の防犯灯は、市が負担して設置する、すでに付いている防犯灯も市に移管することとなりました。暗い夜道で中学生が犯罪にあった事件など、社会問題化してきたことに対応したものです。

非正規保育士の賃金が一部引き上げ

何年働いていても賃金が同じという嘱託保育士のうち、担任をもつ保育士の賃金が約1万円アップします。さらに経験年数に応じた昇給を行なうこと、他の職種にも広げて、県下でも低い位置にある非正規職員の待遇改善を求めていきます。

また老朽化した市立保育所の修繕費が、4,320万円と大幅にふえています。昭和40年代から50年代に建てられた園舎が多く、もう修繕ではなく建て替えが求められているのです。

小学校の自校給食調理室の老朽化も問題となってきて、今年から1億6千万円で6年かけて改修を行なうことになりました。子どもたちの安全を守る園舎や校舎の改修は最優先、前倒しで行なうことを求めたいと思います。

後期高齢者医療の保険料5.5%値上げ

75才以上のお年寄りの後期高齢者医療の保険料は、2年ごとに引き上げがされる仕組みになっています。これまでの年間平均53,539円が、56,497円になり、2,958円（5.5%）の値上げです。ほとんどが年金から自動的に引かれるので、文句を言うこともできません。高齢者の皆さんは、年金の引き下げ、消費税アップに加えて保険料値上げ、でいっそう生活が苦しくなります。

後期高齢者医療は県で一括の保険にされたので、保険料を決めるのは県の広域連合という市民から遠い所、市は保険料を集めて県に納めるだけです。市議会では保険料などを議論する場もないのです。

高い国保税、ちょっと下がる世帯も

国保税の「中間所得層の被保険者の負担に配慮した見直し」により、今年の国保税が少し下がる世帯があります。応益割の「5割軽減・2割軽減」が適用される世帯が広がり、1,600世帯ほどが新たに対象となります。「中間所得層」といっても、3人世帯モデルで給与収入147万円～266万円という、生活がきびしい階層です。また一方では課税最高限度額が77万円から81万円に上がり、少し増税になる世帯もあります。

国保税は、少々下がったくらいでは払える水準にはならないほどの高さです。やはり国がけずってきた補助金を元に戻すこと、市も一般会計から繰り入れてでも引き下げる努力をしないと、市民の暮らしは守れません。

中勢バイパス稲生工区が部分開通

国道23号中勢バイパスの稲生工区1.8キロが完成し、3月23日に開通しました。19日に議会から現地見学に行きました。野町の県道からサーキット道路までの区間で、すでに完成している御菌町までの2.3キロとつながりました。サーキット道路や市道とは立体交差で、信号なしでスムーズに通れます。南の津市側、北の安塚町までの工区が完成すれば、交通量は激増するでしょうが、まだだいぶ先のようなのです。



ずいそう



星屑から生まれた私

S T A P細胞をめぐる騒動のニュースを毎日のように見ている、われわれ門外漢は何が問題なのか、間違いなのかも未だによく分からない。専門家でもすぐにおかしいと判断できずにいたのだから、無理もないが、こうなると科学の進歩と、それを使う人間の進歩のチグハグがいちばん問題になってくる。その最たるものが、原発の「安全神話」ではなかったか。あとで「だまされた」と分かった時では遅いのである。

私たち人間も大きな宇宙の一部である

「宇宙になぜ我々が存在するのか」という最新素粒子論の入門本を読んだ。専門家が素人にも分かるように易しく書いてあるというのだが、やっぱり良く分からないことばかりだ。それでも何とか分かったことを、書いてみると・・・。

私の体を作っている材料は細胞であるが、その細胞は数十種類の原子の組み合わせでできている。酸素、炭素、水素、カルシウム・・・これらの元素はどこから来たのか？それは、何十億年も前に爆発した「星の屑」だということである。

宇宙は137億年前に生まれて、ビッグバンを起こし膨張し、徐々に冷えて水素、ヘリウムなどの元素ができ、固まって星になった。それが爆発して宇宙空間にばらまかれたガスやチリがまた星になり、集まって100億年前に銀河、46億年前に太陽系となり、わが地球もその一つである。

その地球上で生まれた私たちは、文字どおり「星屑」で出来ている、ということになる。いま生きている私たちの存在は、宇宙の始まりと関わっているのである。素粒子のことはサッパリ分からなくても、私の存在は宇宙の一部だということぐらいは理解できる。

忙しく動いている毎日の中で、時には宇宙スケールでものを考え、頭の整理をすることが必要ではないか。目先の損得や人間関係なども広い視野で見直すことになり、ちょっと心が楽になるような気がする。

最近のごうまん政治家、戦争をしたがったり金もうけに走ったりする連中にも、広い視野をもつことを求めたい、がムリな話か。